

FUJITSU Server PRIMERGY BX2560 M1/BX2580 M1 ご使用上の留意・注意事項

FUJITSU Server PRIMERGY BX2560 M1/BX2580 M1 サーバブレードに関して、下記の留意・注意事項がございます。
本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

2019 年 4 月
富士通株式会社

【BX2560 M1 のみ】

1. BX400 S1 シャーシ搭載時の注意事項について

BX400 S1 シャーシと BX2560 M1 サーバブレードの組み合わせは未サポートであり、ご使用になれません。

本件は 2015 年 1 月 9 日にサポート可能となりました。

2. メモリのミラードチャンネルモードおよびランクスペアリングモードについて

本製品ではメモリのミラードチャンネルモードおよびランクスペアリングモードはご使用になれません。

BIOS 設定の [Advanced]-[Memory Configuration]-[Memory Mode] を "Mirroring" および "Sparing" に設定してご使用になれません。

ランクスペアリングモードは、2015 年 4 月 16 日にサポート可能となりました（BIOS 版数 R1.5.0 より使用可能）。

ミラードチャンネルモードは、BIOS 版数 R1.18.0 で修正しました。

3. Windows Server 2012 (R2) の「記憶域スペース」ご使用の場合の注意事項

「記憶域スペース」に使用する PRIMERGY SX980 S2 ストレージブレードおよび JX40 の HDD の状態監視は Server View RAID Manager では行えません。

4. BX2560 M1 の外形寸法について

本製品は従来機 BX920 S4 に比べ、搭載部品増加により実装容積が増え、前面が約 15mm 突出していますが、サーバの機能としては問題ありません。

5. SAS エキスパンダー拡張ボードについて

本製品に SAS エキスパンダー拡張ボード (PY-SED34/PYBSED342) を搭載する場合、下記ファームウェア版数の組み合わせでご使用ください。

- PRIMERGY SAS スイッチブレード (6Gbps 18/6) のファームウェア版数 20.9.131.0 以降
- PRIMERGY BX900 S1/S2 マネジメントブレード ファームウェア版数 5.44 以降 または
PRIMERGY BX400 S1 マネジメントブレード ファームウェア版数 6.75 以降

6. 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PYBBS08PA / PY-BS16PA / PYBBS16PA / PY-BS20PA / PYBBS20PA) ご使用時の留意事項

- (1) 2.5 インチ PCIe SSD をご使用される場合、BIOS 版数 R1.18.0 以降および iRMC ファームウェア版数 7.73F 以降を適用してください。
- (2) 2.5 インチ PCIe SSD に OS をインストールしてご使用される場合、BIOS を UEFI モードに設定する必要があります。
また、本デバイスは、下記 OS の起動に対応しています。
 - Windows Server 2012 R2
 - Red Hat Enterprise Linux 7.0
- (3) PRIMERGY BX2560 M1 アップグレード&メンテナンスマニュアル 6.4 項にてホットプラグは記載制限事項を満たす場合のみ可能とされていましたが、上記製品は本体 BIOS 1.23.0 以降でホットプラグをサポートしております。ホットプラグの詳しい手順は下記 URL より対応製品の製品情報をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/archive/peripheral/disk.html>

7. 内蔵ストレージデバイスのアクセス LED について

本製品に以下に記載の内蔵ストレージデバイスを搭載した場合、HDD/SSD アクセス表示ランプ(緑色)が点灯しないことがありますが、故障ではありませんので、そのままご使用ください。

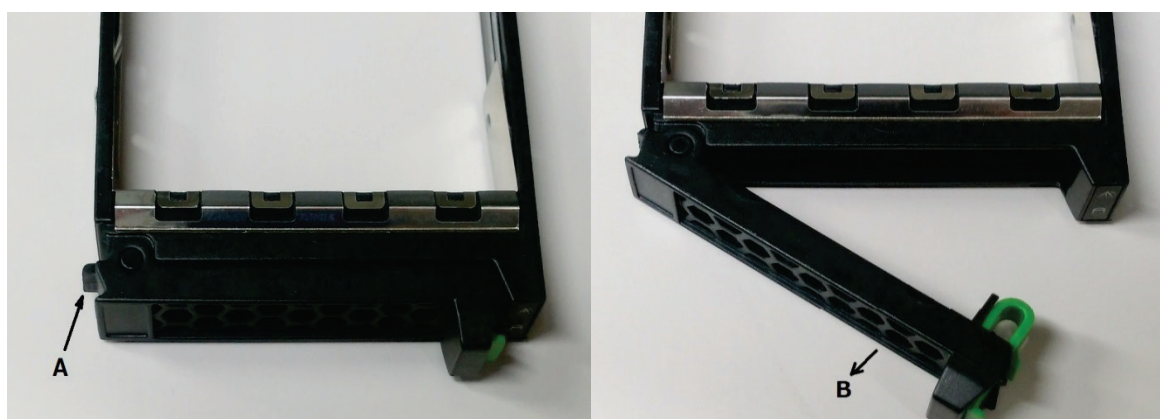
※ HDD/SSD 故障ランプ(オレンジ色)は、内蔵ストレージデバイス故障時などに正常に点灯・点滅します。

[対象となる内蔵ストレージデバイス]

- BC-SATA HDD (SATA 6Gbps, 7.2krpm, 512e) 1TB / 2TB
: PY-BH1T7F7 / PYBBH1T7F7 / PY-BH2T7F7 / PYBBH2T7F7
- BC-SATA HDD (SATA 6Gbps, 7.2krpm, 512n) 1TB / 2TB
: PY-BH1T7D5 / PYBBH1T7D5 / PY-BH2T7D7 / PYBBH2T7D7

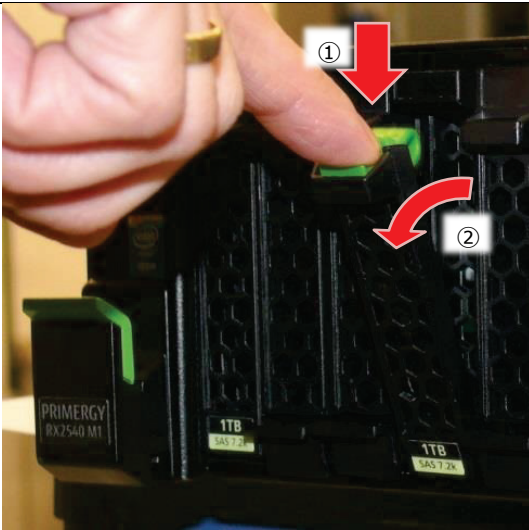
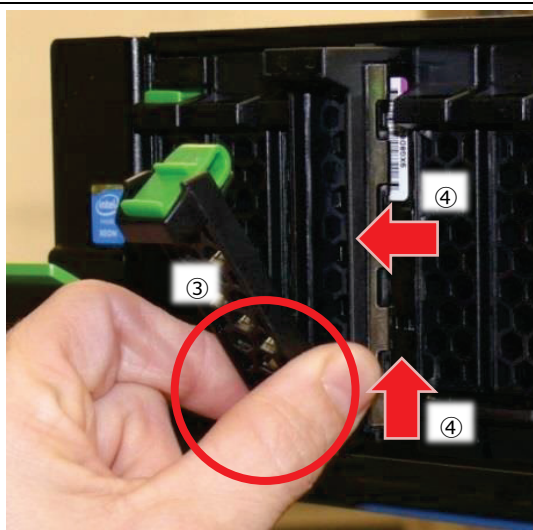
8. 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD/SSD を取り外す際に、下左図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSD トレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。




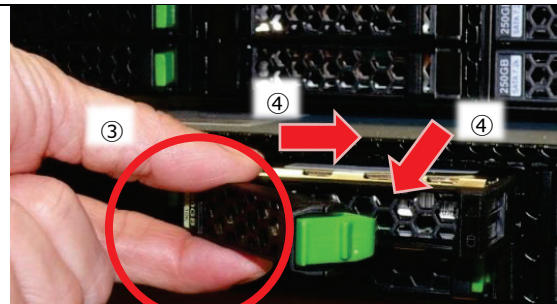
取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。

[HDD/SSDトレイが縦向きに搭載されている場合]

	
<p>①タッチポイントを押し、ロックを解除します。</p> <p>②手前にリリースレバーを約 45°手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。</p> <p>④トレイを軽く持ち上げて、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。
(HDD/SSDを元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSDを引き抜いてください。)

[HDD/SSDトレイが横向きに搭載されている場合]

	
<p>①タッチポイントを押し、ロックを解除します。</p> <p>②手前にリリースレバーを約 45°手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。</p> <p>④トレイを軽く右方向へスライドしてから、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイをスライドしても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。
(HDD/SSDを元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSDを引き抜いてください。)

【BX2580 M1 のみ】

1. オンボード SATA コントローラのアレイ接続について

オンボード SATA コントローラに内蔵 SSD 2 台をアレイ接続（RAID1）した状態で SSD0 の位置（サーバ前側）に搭載された内蔵 SSD が故障した場合、電源投入時または再起動時のオンボード SATA コントローラのデバイススキャンで SSD1 の位置（サーバ奥側）に搭載された内蔵 SSD を認識しません。

本問題は、BIOS 設定を変更することで回避可能です。下記手順に従って BIOS 設定を変更してからご使用ください。

BIOS 設定の変更手順

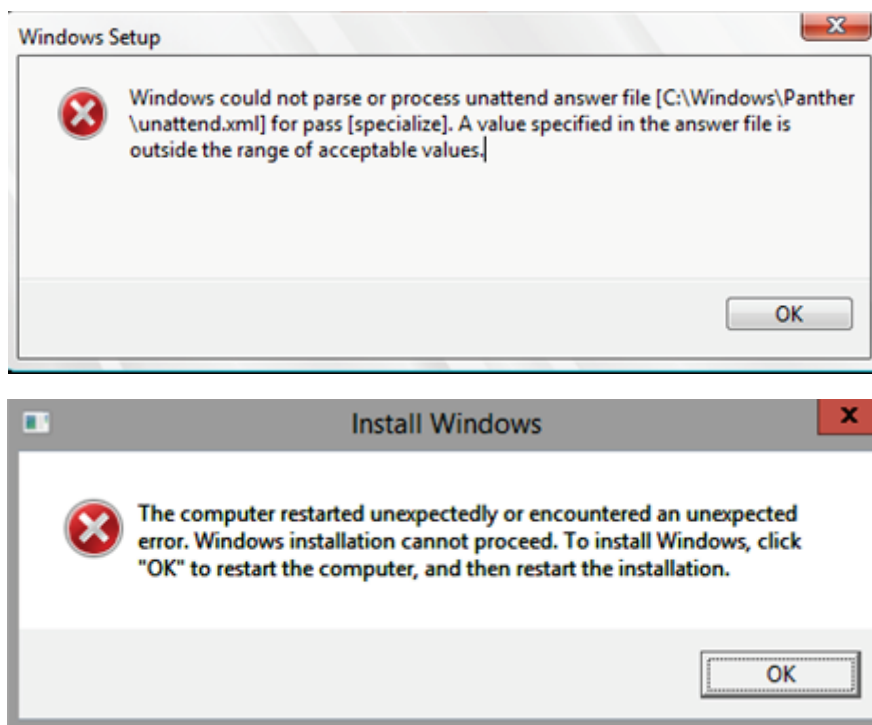
- (1) BIOS セットアップユーティリティに入ります。
- (2) [Advanced]-[SATA Configuration]-[SATA Mode] を“AHCI Mode”に変更します。
- (3) SATA Port1 および Port2 の [Hot Plug] を“Enabled”に変更します。
- (4) [Save&Exit]-[Save Options] で“Save Changes”を実行します。
- (5) [Advanced]-[SATA Configuration]-[SATA Mode] を“RAID Mode”に変更します。
- (6) [Save&Exit] で“Save Changes and Reset”を実行し、サーバを再起動します。

本件は、BIOS 版数 R1.18.0 で修正しました。

2. Windows Server 2012 R2 のインストールについて

ServerView Installation Manager を使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする場合は、必ずオンボード CNA を Enabled にしてください（出荷時設定）。

オンボード CNA を Disabled に設定して OS をインストールした場合、次のメッセージが表示されインストールが失敗します。



BIOS 設定の [Advanced]-[Onboard Devices Configuration]-[Onboard CNA] を必ず“Enabled”に設定してください。

3. メモリ 32GB LRDIMM の容量表示について

32GB LRDIMM を同一チャネルのメモリスロットに 3 枚搭載して使用すると ServerView および MMB WEB UI で正しいメモリ容量を表示しない場合がありますが、表示上の問題だけで OS は正しく認識し正常動作します。

本件は、BIOS 版数 R1.18.0 で修正しました。

4. SX960 S1 接続時のシステムイベントログについて

SAS アレイコントローラカード (PY-SR2C2/PYBSR2C2) を搭載した SX960 S1 に BX2580 M1 を接続した場合、サーバブレードの電源投入時にサーバブレードのシステムイベントログに下記エラーメッセージが記録されることがありますが、サーバブレードの動作に問題はありません。

サーバブレードのシステムイベントログ

```
-----  
YYYY-MM-dd HH:MM:SS Info/Normal Operating system boot DD-MM-YYYY HH:MM:SS  
YYYY-MM-dd HH:MM:SS Info/Normal Boot from hard drive completed  
YYYY-MM-dd HH:MM:SS Critical Legacy PCI SERR Bus: 0 Device: 0x03 Function: 0x00  
-----
```

【BX2560 M1/BX2580 M1 共通】

1. UEFI モードについて

UEFI モードの設定方法や OS およびオプションのサポート状況に関しては、下記 URL をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

2. Red Hat Enterprise Linux 6/ Red Hat Enterprise Linux 7 を使用時の注意事項について

Red Hat Enterprise Linux 6 および Red Hat Enterprise Linux 7 を USB3.0 で使用すると IERR が発生する可能性があるため、ご使用になれません。

BIOS 設定の [Advanced]-[USB Configuration]-[xHCI Mode] を "Disabled" に設定してご使用ください。

3. Red Hat Enterprise Linux 7 ご使用時の設定について

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用される場合、カーネルパラメータに `[intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0]` を追加してご使用ください。

カーネルパラメータを追加しないでご使用された場合、稀に予期せぬリブート等の現象が発生する場合があります。

本件は、BIOS 版数 R1.5.0 で修正しました。

4. Red Hat Enterprise Linux 7 のリモートインストールについて

オンボード SATA コントローラに接続した内蔵ストレージに SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 7 をリモートインストールする場合、次のメッセージを表示して OS をインストールすることができません。

ローカルインストール、または、仮想メディアで OS をインストールしてください。

An unknown error has occurred. This program has encountered an unknown error.
You may report the bug below or quit the program.

5. 液晶ディスプレイの接続について

フロント Y ケーブルに接続した液晶ディスプレイの画面調整する場合、自動調整に失敗するため、"Auto" を使用しないでください。

画面調整する場合は、マニュアル操作で液晶ディスプレイの画面調整をしてください。

6. ServerView Operations Manger から MAC アドレスが確認できない

ServerView Operations Manger の Single System View で、Linux に ServerView Agents がインストールされたシステムのシステム LAN、MMB、iRMC の MAC アドレスが表示されません。

MMB、iRMC の Web ユーザーインターフェースまたは OS のユーティリティーで確認してください。

7. ServerView Operations Manger、ServerView Agents のインストールについて

本装置で 64bit Linux OS を使用している環境に、ServerView Operations Manager V7.00/V7.01 (SVOM)、ServerView Agents V7.00/V7.01 (SVA) をインストールする場合、以下の点にご注意ください。

64bit Linux OS 上では SVOM または SVA のどちらかしかインストールすることができません。

インストールを行なおうとすると以下のようになります。

- SVOM がインストールされている環境では SVA はインストールできません。
- SVA がインストールされている環境では SVOM がインストールできません。

そのため、SVA をインストールして本装置の監視を行う場合、SVOM は V7.02 以降をご利用ください。

※ SVOM V7.02 以降と SVA V7.00/V7.01 を組合せて使用する場合、先に SVOM がインストールされていると SVA のインストールが行えません。

SVA をインストール後、SVOM V7.02 以降をインストールしてください。

8. Xeon プロセッサ E5-2697v3 および E5-2699v3 搭載時の吸気温度について

Xeon プロセッサ E5-2697v3 および E5-2699v3 を搭載した本製品を PRIMERGY BX900 S1 シャーシおよび BX900 S2 シャーシに搭載してご使用される場合、吸気温度が 28℃未満の環境でご使用ください。

9. Intel TXT 機能は未サポート

本製品では、Intel TXT 機能 *1 はご使用になれません。

*1: Intel TXT 機能 (インテル®トラステッド・エグゼキューション・テクノロジー)

10. SR-IOV 機能について

SR-IOV *1 機能は、Windows Server 2012, 2012 R2 環境で使用できます。

但し、CNA *2 ファームウェアは 10.2.405.33 以降の版数の適用が必要です。

VIOM *3 をご使用の場合は、V3.4.06 以降の版数をご使用ください。

*1: Single Root I/O Virtualization

*2: Converged Network Adapter

*3: ServerView Virtual-IO Manager

11. ソフトウェア RAID とハードウェア RAID の相違点について

本製品は、ソフトウェアの処理により RAID 機能を実現しております。ハードウェア RAID コントローラと比較すると、機能面・性能面に差がございます。詳細は下記 URL をご参照ください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/note03.html

12. ネットワークカード／サーバブレード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 をご使用の場合、LAN 拡張ボードおよびコンバインド・ネットワーク・アダプタ拡張ボードまたはサーバブレードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報 (IP アドレス/Teaming 設定など) が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2 : KB2344941, KB976042
(SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2 (SP1) : KB2550978, KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

- Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。
2014 年 12 月時点では、下記の URL から検索可能です。
<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>
- Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。
OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN および CNA コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

- (1) デバイスマネージャを起動します。
コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1  
start devmgmt.msc
```
- (2) 非表示デバイスを表示可能にします。
デバイスマネージャで「表示」メニューの「非表示のデバイスの表示」をクリックしてください。
- (3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。
色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

13. SAS コントローラ拡張ボード／SAS アレイコントローラ拡張ボード 搭載時の注意事項

SAS コントローラ拡張ボード(PY-SCD08/PYBSCD082) または SAS アレイコントローラ拡張ボード(PY-SRD08/PYBSRD082)をご使用の際は、BIOS 設定の[Advanced]メニュー-[Option ROM Configuration]-[Launch Slot 3 OpROM]を[Enabled]に設定してご使用ください。

14. 内蔵ストレージデバイスのオンボード SATA コントローラ接続について

本製品では、オンボード SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを AHCI Mode (非 RAID 構成) で接続してご使用になれません。オンボード SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを接続する場合は、必ず RAID を構成する必要があります。ただし、VMware をご使用になる場合を除きます。

15. OS 仮想機能について

本製品では、オンボード SATA コントローラを RAID モードでご使用される場合、Hyper-V、KVM、VMware などの OS 仮想化機能をサポートしていません。

16. ファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)について

ファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)をご使用の場合、サーバ起動時にファイバーチャネル拡張ボード(8Gbps)を認識する画面が 2 度表示されたり、サーバ起動時に「F12」押下でブートメニューを表示させると 2 つのターゲットが表示されたりしますが、どちらを選択しても同じ動作となります。

17. iRMC 設定の復元について

サーバブレードの保守交換等により、iRMC Web インターフェースで設定保存時の iRMC 版数と復元時の iRMC 版数が異なる条件で iRMC 設定を復元する際の注意事項について記載します。

iRMC FW 版数が下表の条件に該当する場合、注意が必要です。

対象機種	対象となる iRMC 設定 保存・復元時の FW 版数		注意事項 (下記、A、B)
	設定保存時の FW 版数	設定復元時の FW 版数	
BX2560 M1 BX2580 M1	7.69F 以前	7.73F 以降	・SNMP コミュニティを public(初期値)のままご使用の場合は、「B」を参照 ・SNMP コミュニティを public 以外に設定してご使用の場合は、「A」を参照

※ 下記 A、B の表に記載している iRMC 設定復元失敗を表示しても、他の設定情報については正しく復元が完了しておりますので問題ありません。

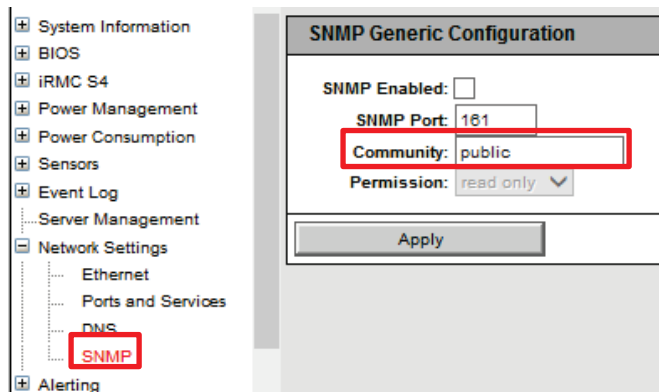
A. SNMP コミュニティを public(初期値)以外に設定してご使用の場合、設定保存時の iRMC 版数と復元時の iRMC 版数が異なる条件で iRMC 設定を復元する際に、下表に記載する設定復元失敗が発生する場合があります。これは、iRMC 版数互換の不具合により発生するもので、SNMP コミュニティの設定情報が引き継がれず public が設定されます。現在ご使用の装置の iRMC Web インターフェースで SNMP コミュニティ名を確認し、iRMC 設定の復元後に SNMP コミュニティ名を変更してください。

B. SNMP コミュニティを public(初期値)のままご使用の場合でも、設定保存時の iRMC 版数と復元時の iRMC 版数が異なる条件で iRMC 設定を復元する際に、iRMC 版数互換の不具合により下表に記載する設定復元失敗が発生する場合があります。但し、iRMC 設定の復元後も public が設定されていますので、本メッセージは無視してください。

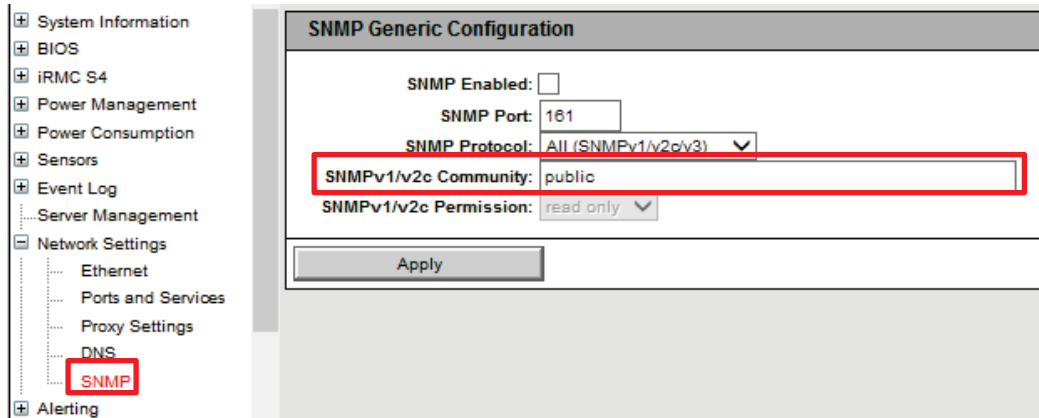
SNMP コミュニティ名の復元失敗時のメッセージ	対象機種	対象となる iRMC 設定 保存・復元時の FW 版数	
		設定保存時の FW 版数	設定復元時の FW 版数
OC="ConfigSpace" OE"1405" OI="1" - String Write to ConfigSpace failed.	BX2560 M1	7.68F 7.69F	7.73F 以降
	BX2580 M1	7.69F	7.73F 以降

[SNMP コミュニティ名の設定画面]

・iRMC FW 7.73F 以前

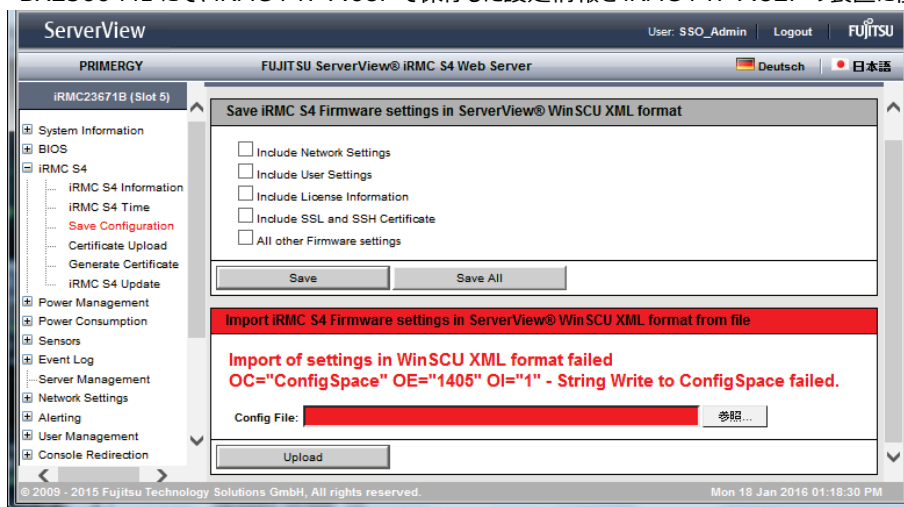


・iRMC FW 7.82F 以降



[SNMP コミュニティ名の復元失敗時の例]

・BX2560 M1 にて、iRMC FW 7.68F で保存した設定情報を iRMC FW 7.82F の装置に復元した場合



対処：SNMP コミュニティを public(初期値)以外に設定してご使用の場合、iRMC 設定の復元後に SNMP コミュニティ名を変更してください。

SNMP コミュニティを public のままご使用の場合、上図のメッセージが示す iRMC 設定の復元失敗は、ご使用上問題ありませんので作業を継続してください。

18. 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にご使用の場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology] を "Custom" (初期設定値：Energy Efficient) にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・ Enhanced SpeedStep : "Disabled" (初期設定値：Enabled)
- ・ Turbo Mode : "Disabled" (初期設定値：Enabled) ※
- ・ CPU C1E Support : "Disabled" (初期設定値：Enabled)
- ・ CPU C3 Report : "Disabled" (初期設定値：Disabled)
- ・ CPU C6 Report : "Disabled" (初期設定値：Enabled)
- ・ Package C State limit : "C0" (初期設定値：C6)

※ Enhanced Speedstep が "Disabled" のままだと Turbo Mode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・ いったん、Enhanced SpeedStep を "Enabled" に変更する (既に Enabled の場合は不要)
- ・ Turbo Mode を "Disabled" に変更する
- ・ Enhanced SpeedStep を "Disabled" に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合 :

/boot/grub/grub.conf の kernel 行に

“intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0”を追記してください。

Red Hat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合 :

/etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に

“intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0”を追記してください。

追記後 grub2-mkconfig コマンドで反映まで実施してください。

19. マネジメントブレードがネットワーク情報を取得できない

マネジメントブレード ファームウェア版数 BX900 S1/S2 Ver. 5.58 以前、BX400 S1 Ver. 6.88 以前の環境において、BIOS 版数 R1.32.0 以降を適用した場合、マネジメントブレードがサーバブレードの MAC アドレス/IP アドレス等のネットワーク情報を取得できず、マネジメントブレード Web ユーザインターフェースの[ネットワークインベントリ](注 1)は情報表示しません。(ネットワーク情報は iRMC(注 2)で確認できます。)

(注 1) マネジメントブレード Web ユーザインターフェース [コンポーネント]-[サーバブレード]-[ネットワークインベントリ]

(注 2) iRMC Web インターフェース [システム情報]-[ネットワーク一覧]

上記不具合対象 : BX2560 M1/BX2580 M1 サーバブレード BIOS R1.32.0 以降

かつ、

マネジメントブレード ファームウェア BX900 S1/S2 Ver. 5.58 以前、BX400 S1 Ver. 6.88 以前

また、下記のソフトウェアは、マネジメントブレードからネットワーク情報を取得しているため、上記の対象構成では使用できません。

対象ソフトウェア	影響
ServerView Operations Manager (SVOM)	マネジメントブレードで一元管理している場合、サーバブレードの監視ができない。サーバブレードを個別に登録することで監視可能。
ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)	割り当て済みのプロファイルはそのまま機能するが、新たなプロファイルの割り当てができず、仮想アドレスを割り当てることができなくなる。
ServerView Resource Orchestrator (ROR)	サーバブレード登録、監視制御、SAN BOOT 環境でシステム起動に支障が生じる。

本件は、次のマネジメントブレード ファームウェアで修正されます。

BX900 S1/S2 マネジメントブレード ファームウェア : Ver. 5.61 (2018 年 1 月 26 日公開)

BX400 S1 マネジメントブレード ファームウェア : Ver. 6.91 (2018 年 3 月 23 日公開)

【重要】

上記ソフトウェアをご使用の環境において、BIOS 版数 R1.32.0 以降を適用する場合は、公開している最新マネジメントブレードファームウェアを適用してください。

本不具合修正マネジメントブレードファームウェアを適用できない場合は、BIOS 版数 R1.32.0 以降は適用せず、以下のソフトウェアをダウンロードして BIOS R1.23.0 を適用してください。

URL :

(BX2560 M1)

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviadownload?driverNumber=F1025745>

(BX2580 M1)

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviadownload?driverNumber=F1025746>

20. ID ボタン操作について

iRMC ファームウェア版数 9.08F 以降で、ID ボタン操作による iRMC リセット機能が追加されました。従いまして、ID ボタン操作による動作および ID ランプの点灯は以下の通りです。

[ID ランプを点灯させる]

- ID ボタンを押すと、ID ランプは青色で点灯します。4 秒以下で離すと ID ランプは点灯のままです。

[iRMC をリセットする]

- ID ボタンを 5 秒以上押すと、ID ランプは青色の点灯から点滅に変わります(*)。ID ランプの点滅中に離すと、1～2 秒後に iRMC がリセットされます。

[NMI を発行する]

- ID ボタンを 5 秒以上押すと、ID ランプは青色の点灯から点滅に変わります(*)。ID ランプの点滅中に離し、1 秒以内にもう一度押すと、NMI が発行されます。

* iRMC ファームウェア 8.86F 以前の版数では、ID ボタンを 5 秒以上押しても ID ランプは青色の点灯のままです。

対象：iRMC ファームウェア 9.08F 以降

なお、本件は以下のマニュアル記載該当箇所の訂正となります。

『BX25x0 M1 サーバブレード オペレーティングマニュアル』の「6.1 各部名称」の「ID ボタン」

『BX25x0 M1 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル』の「5.1.10 ID ランプの点灯」の「フロントパネルの ID ボタンを使用する」

21. サーバブレード上の LAN ポートのオートネゴシエーション表示について

サーバブレードとイーサネット コネクションブレード間のポートの速度およびデュプレックスモード(全二重・半二重)は、イーサネット コネクションブレードのダウンリンクポートがサポートしている速度およびデュプレックスモードに自動で固定され、この動作はサーバブレードの OS 上で表示されているオートネゴシエーションの状態に依存しません。

例えば、ESXI5.x/ESXI6.x で、esxcli コマンドで表示されるオートネゴシエーションの初期値が無効であったり有効であったりする場合がありますが、この値を変更する必要はありません。また、速度やデュプレックスモードの値を、サーバブレード上で設定する必要もありません。

22. Inventory Boot 動作時の注意事項

POST 中に起動可能なデバイスが検出出来ない場合、POST 後に BIOS セットアップユーティリティが起動します。

この状態においては Inventory Boot (*) が完了できませんので、一時的に DVD ドライブや USB メモリ等のデバイスを接続するか、一時的に PXE ブートを有効にする、といった対応が必要となります。条件を満たしやすい、構築中や移設時に注意してください。

* サーバブレードの構成チェック動作です。電源オン状態のシャーシへサーバブレードを搭載した時や、シャーシの電源を投入した際に動作します。Inventory Boot ではサーバブレードの電源が自動的に投入され、POST 後に電源オフとなります。

以上